



研究授業を行いました

11月22日(水)に道徳の研究授業を行いました。本校は、校内研究として「多様な価値を認め合う豊かな心の育成～9年間を繋ぐ道徳教育の工夫改善や家庭、地域との連携を通して～」の研究テーマのもと、全職員で道徳教育の工夫改善を図っています。今回は低学年グループ(1～4年生)、中学年グループ(5～7年生)、高学年グループ(8、9年生)のそれぞれの教員団が協力しながら1つの授業をつくりあげ、代表者が授業を行いました。「家庭、地域との連携」のテーマのもと、児童生徒の道徳性を育むために、様々な工夫を凝らした道徳授業を行いましたので紹介します。

1年生 「こぐまのらっぱ」 小島悠夏 教諭

「希望と勇気、努力と強い意志」の大切さを内容とした授業に取り組みました。授業が進むとともに児童は演奏会に向けて努力する主人公のこぐまになりきりながら、「くじけそうな気持ち」や「やりとげる充実感」に気づき、物事をやりとげることの大切さを理解することができました。

テーマについて、家庭との連携として、授業の最後に保護者からの手紙を読み、児童が家庭で行っている努力の大切さについても気づくことができました。



6年生 「高取伊好」 卯津江康憲 教諭

「人間としてよりよく生きること」の大切さを内容とした授業に取り組みました。郷土の偉人である高取伊好の銅像を思い出し、身近な偉人の人生の中で「努力をすることの大切さ」「社会のために働くことの大切さ」「郷土のために貢献することの大切さ」に気づく事ができました。

テーマについては、地域の偉人である高取伊好の偉人伝を道徳用の教材として作り直し、誇りある生き方をする偉人について身近に考えることができました。



8年生 「好きな仕事か安定かなやんでいる」 武村昌憲 教諭

「勤労」の大切さを内容とした授業に取り組みました。「理想的な生き方」と「現実的な生き方」という大学生の卒業後の職業選択について考えました。生徒たちは自分の進路選択と重ね合わせながら、「生活を維持することの大切さ」「社会のために貢献することの大切さ」に気づくことができました。

テーマについては、地域との連携として、地域から実際に働く社会人をゲストティーチャーとして招くことで「勤労」について自分事として考えることができました。

